

# 平成25年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について

教育委員会学校教育課

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### (2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数			実施児童生徒数		
		本市	県(公立)	全国(公立)	本市	県(公立)	全国(公立)
小学校	6年生	78校	520校	20,418校	約5,390人	約15,200人	1,108,000人
中学校	3年生	39校	232校	9,752校	約5,070人	約14,700人	1,027,000人

### (3) 調査の内容

ア 教科に関する調査

国語、算数・数学における

A 主として「知識」に関する問題

B 主として「活用」に関する問題

イ 質問紙調査

生活習慣や学習環境等に関する調査

### (4) 調査日

平成25年4月24日（水）

## 2 教科の区分（A「知識」とB「活用」）に関する調査結果

（平均正答率・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率）

### (1) 小学校（調査対象：6年生）の平均正答率（％）

教科 区分	国語		算数	
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」
本市	67.1	50.9	80.3	59.2
県	64.7	47.9	78.8	56.7
全国	62.7	49.4	77.2	58.4

### (2) 中学校（調査対象：3年生）の平均正答率（％）

教科 区分	国語		数学	
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」
本市	77.2	67.4	64.6	42.6
県	75.4	64.8	61.5	39.2
全国	76.4	67.4	63.7	41.5

## 3 今後の調査結果の公表等について

### (1) 本市

各教科及び質問紙調査の結果概要とその分析、結果に対する対応策等についてまとめたものを各学校に提供するとともに、市のホームページで公表する。

### (2) 学校

公表は校長の判断であるが、公表する場合は、自校の成果・課題、解決策等を示す。また、平均正答率は数値で示さず文章で表現するなど、学校の序列化や過度の競争につながらないよう配慮する。

### (3) 今後の活用

- ・ 市教委は、市の調査結果から明らかになったことについて対応策等を示し、各学校の指導方法の改善に生かすよう指導する。
- ・ 各学校は、自校の調査結果を分析し、結果についての対応策をもとに、指導方法の改善に生かす。

平成 25 年度 全国学力・学習状況調査（国語）  
～調査結果から見える本市国語科教育の課題について～

学校教育課

1 国語科の調査結果

小学校においては、A問題は、全国平均を上回っているおり、B問題は全国平均とやや上回っている状況であった。

中学校においては、A・B問題はともに、全国平均とほぼ同じであった。また、「読むこと」はA・B問題ともに、全国正答率を下回る結果となった。

平成二十四年度と比較すると、小・中学校のB問題は、全国平均との差が小さくなっている。

項	小学校		中学校	
	A	B	A	B
本市正答率	67.1	50.9	77.2	67.4
全国正答率	62.7	49.4	76.4	67.4
全国比	+4.4	+1.5	+0.8	±0

2 本市国語科の課題

目的に応じて資料を読み、複数の内容を、関係付けて書いたり比較して違いを読み取ったりすることに課題がある。文と文の繋がりがりや段落相互の関係、文章の展開や図と文章の関係をつえるなど、関係を読み取ることに課題がある。

【各学校種別の課題】	
<p>＜小学校の課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接続語「だから」のもつ働きを理解する。 A3ニ(2)</li> <li>目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く。 B2ニ</li> <li>目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く。 B2三</li> <li>2人の推薦文を比べて読み、読み方の違いを捉える。 B3ニ</li> </ul>	
<p>＜中学校の課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>描写の効果を考え、内容を理解する。 A2ニ</li> <li>表現の効果や特徴を捉える。 B2ニ・B3ニ</li> <li>文章の展開に即して内容を捉える。(昨年から引続き) A5ニ</li> <li>段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉える。 B1一</li> <li>図と文章との関係を捉える。 B1ニ</li> <li>話すための材料を多様な方法で集める。 A6一</li> </ul>	

3 課題を示す特徴的な問題

【小学校B3ニ】

《2人の推薦文を比べて読み、読み方の違いを捉えることができるかどうかをみる問題》

【本市正答率】  
51.1%  
(全国比▲0.8)  
複数の内容を比べて読み、違いを捉えることに課題

二 前田さんは、二人のせいせん文を比べて読み、二人の読み方にはちがいがあつきました。二人は、どのような読み方をしていますか。その説明として最もふさわしいものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 同じ題材で、複数の作者が書いた作品を取り上げ、作者の考えを比べながら読んでいます。
- 2 一つの作品を取り上げ、自分の考えと作者の考えのちがいを明らかにしながら読んでいます。
- 3 同じ作者の複数の作品を取り上げ、登場する主人公に注目しながら読んでいます。
- 4 同じ主人公が登場する作品を取り上げ、そのおもしろさをまとめながら読んでいます。
- 5 一つの作品を取り上げ、注目した物語の最後の部分や全体を何度もくり返し読んでいます。

【中学校A5ニ】

《文章の展開に即して内容を捉えることができるかどうかをみる問題》

【本市正答率】  
71.7%  
(全国比▲3.9)  
内容を比較したり関係付けたりしながら読むことに課題

二 線部「小麦はそういうわけにはいきません」とありますが、その理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 小麦の粒は、米の粒と比べて外皮（ふすま）が柔らかいので、外皮（ふすま）だけを取り除くことが難しいから。
- 2 小麦の粒は、米の粒と比べて外皮（ふすま）が柔らかいので、外皮（ふすま）を取り除くと栄養素が失われるから。
- 3 小麦の粒は、米の粒とは形や構造に違いがあるので、外皮（ふすま）だけを取り除くことが難しいから。
- 4 小麦の粒は、米の粒とは形や構造に違いがあるので、外皮（ふすま）を取り除くと栄養素が失われるから。

【中学校B-11】

《図が示す内容を説明したものととして適切なものを選択する問題》

② 江戸時代から遊び道具の一つとして親しまれてきた「いろはかるた」ですが、一つ一つのことわざに着目してみると生活に役立つ知恵が多く含まれていることが分かります。近代の有名な作家である芥川龍之介も、私たちの生活に欠くことのできない思想は、「いろはかるた」に全て盛り込まれているのかもしれないといった内容を書き残しています。子どもにとっては少々難しいことわざでも、遊びを通して楽しみながら身近に感じたり学んだりすることができるのが「いろはかるた」のよさの一つだと言えます。

③ 「いろはかるた」と一口に言っても、種類ではありません。例えば、「い」で始まることわざでも、「犬も歩けば棒にあたる」、「石の上にも三年」、「一を聞いて十を知る」、「急がば回れ」など、時代や地域によって様々なものが取り上げられています。また、「犬も歩けば棒にあたる」は、生活や社会の状況によって異なる解釈が生まれています。それは、絵札を比較するとよく分かります。

④ ところで、皆さんはかるた遊びをしたことがありますか。お正月に家族で楽しむものの一つとして思い浮かべる人もいるのではないのでしょうか。「いろはかるた」で遊んだ経験はなくても、郷土をテーマにしたかるたや、漫画などのキャラクターが登場するかるたなど、



② 本文中の「図」は、どのようなことを説明するために示されていますか。次の1から4までのうち、最も適切なもの一つを選びなさい。

- 1 地域によって特色や環境、昔からの風習などが異なっていることを説明するため。
- 2 生活に役立つ知恵を盛り込むために様々な絵札が必要になったことを説明するため。
- 3 時代の変化とともに子どもたちのかるた遊びの方法が変わってきたことを説明するため。
- 4 生活や社会の状況によって異なる解釈が生まれたことわざがあることを説明するため。

【本市正答率】  
80.1%  
(全国比▲2.9)  
図と文章との関係を捉えることに課題

4 児童・生徒質問紙との関連

小・中学校いづれにおいても、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたり」する活動や、「うまく伝わるように話の組み立てを工夫」する活動が十分であるとさええない。このこ

とは学力調査の結果と相関が見られる。

5 授業改善のポイント

① 知識の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスがとれた年間指導計画に基づく授業を実践する。

・ 実生活の様々な場面を踏まえた言語活動を、単元を貫く形で位置付ける授業の実践

② 目的に応じて資料を読み、複数の内容を、関係付けて書いたり比較して違いを読み取ったりする能力を身に付ける活動を重視する。

・ 行事や職場訪問などの体験を、目的や読み手を意識して報告する文章を書く場面を設定し、取り上げる内容とその伝え方を考えて書く授業

・ 書かれている事柄の共通点や相違点をまとめながら読んだり、複数の本や情報を併せて読んだりする授業

③ 授業で意見などを発表する際、うまく伝わるように話の組み立てを工夫したり、相手の話の展開に注意して聞いたりできるよう指導を工夫する。

・ 接続語の働きや段落の関係を理解させ、文のつながりや論の展開を意識しながら、的確に読み取ったり適切に自分の考えを述べたりする授業

質問事項	小学校		中学校	
	本市	全国比	本市	全国比
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	56.2	▲1.1	48.4	▲3.8
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。	54.2	▲3.1	41.5	▲5.6

# 平成25年度 全国学力・学習状況調査（算数・数学）

## ～調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について～

### 1 算数・数学科の調査結果

小学校においては、A・B問題ともに、本市の平均正答率は全国の平均正答率をやや上回っており、A問題については、正答率も80%を越えている。しかし、B問題は、A問題より全国との差は小さく、「数と計算」領域が全国より下回った。

中学校においては、A・B問題ともに、本市の平均正答率は全国の平均正答率をやや上回っている。平成24年度と比較すると、B問題は、全国より上回る結果となったが、「図形」領域が全国より下回った。

	算 数		数 学	
	A	B	A	B
本市	80.3	59.2	64.6	42.6
全国	77.2	58.4	63.7	41.5
全国比	+3.1	+0.8	+0.9	+1.1

【算数・数学の平均正答率（%）】

### 2 本市算数・数学科の課題

#### 【小・中学校共通】

- 長文から文意を読み取り、条件に合ったかたちで解答することに課題があり、特にB問題の「活用」に関する問題等に慣れていない傾向がある。

#### 【小学校】

- 示された情報を数学的に解釈し、問題を解決するための見通しをもち、筋道立てて考えたり数学的表現を用いて表現したりすることに課題がある。

#### 【中学校】

- 考察の対象となる事象の特徴を適確に捉え、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて証明すること及び事象を多面的に見ることに課題がある。

### 3 課題を示す特徴的な問題


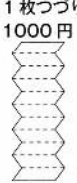

#### 【小学校B1(2)】

示された情報から条件に合うものを選択し、その選択が正しい理由を言葉と数を用いて記述する問題で、全国を下回った。

1

(2) としおさんは、乗り物に乗る計画を立てたところ、乗り物券が15枚必要になることがわかりました。  
乗り物券と乗り放題券（フリーパス）の料金は、下の表のとおりです。

料金表

乗り物券		乗り放題券
1枚券 100円	11枚つづり 1000円	1500円
		

次の1から3までの券の買い方のうち、乗り物券15枚分の料金がいちばん安くなるのはどれですか。1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号の買い方がいちばん安くなるわけを、言葉と数を使って書きましょう。

- 1枚券を15枚買う。
- 11枚つづりの乗り物券を1つと、1枚券を4枚買う。
- 乗り放題券を買う。

【本市正答率】 46.2% [全国：50.8%]  
（※ 2と解答し理由がかけていない：32.5%）

#### 【小学校B4(1)】

単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を式や言葉を用いて記述する問題で、全国を下回った。

4

平成23年(2011年)に行われたサッカー女子ワールドカップで、サッカー日本女子代表のなでしこジャパンが優勝しました。

(1) ひろきさんは、ワールドカップ後のなでしこリーグ(日本女子サッカーリーグ)の試合の観客数が増えたのではないかと考えました。  
そこで、あるサッカー場で行われた、平成23年のなでしこリーグの試合の観客数を調べ、下の表にまとめました。



あるサッカー場の試合数と観客数

	試合数 (試合)	観客数の合計 (人)	試合あたりの観客数 (人)
ワールドカップ前	2	約 2200	約 1100
ワールドカップ後	3	約 33000	

ワールドカップ後の1試合あたりの観客数は、ワールドカップ前の1試合あたりの観客数の約何倍になっていますか。求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

【本市正答率】 40.7% [全国：43.1%]  
（※ 求め方を書けていない：14.4%）

【中学校B④(1)】

示された方針に基づいて証明することができるかどうかをみる問題で、全国を下回った。

4

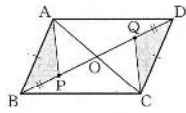
(1) 悠斗さんは、次のような証明の方針1を考えました。この証明の方針1にもとづいて、 $AP = CQ$ となることを証明することができます。

証明の方針1

①  $AP = CQ$ を証明するためには、 $\triangle ABP \equiv \triangle CDQ$ を示せばよい。

②  $\triangle ABP$ と $\triangle CDQ$ の辺や角について、等しいことがわかるものを探せばよい。まず、平行四辺形ABCDの性質から、 $AB = CD$ がわかるし、仮定から、 $BP = DQ$ もわかっている。

③ ②を使うと、 $\triangle ABP \equiv \triangle CDQ$ が示せそうだ。



この証明の方針1にもとづいて、 $AP = CQ$ となることを証明しなさい。

【本市正答率】 30.3% [全国：32.4%]

(※ 方針に基づかない回答：33.5%)

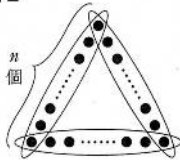
【中学校B⑥(3)】

事象を多面的に捉え、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する問題で、全国と同様低い通過率であった。

6

(3) 図2のような囲み方をすると、碁石全部の個数は、 $3n - 3$ という式で求めることができます。碁石全部の個数を求める式が $3n - 3$ になる理由は、次のように説明できます。

図2



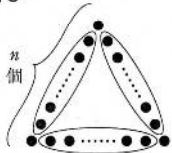
説明

正三角形の辺ごとにすべての碁石を囲んでいるので、1つのままとまりの個数は  $n$  個である。同じままとまりが3つあるので、このままとまりで数えた碁石の個数は  $3n$  個になる。このとき、各頂点の碁石を2回数えているので、碁石全部の個数は  $3n$  個より3個少ない。

したがって、碁石全部の個数を求める式は、 $3n - 3$ になる。

図3のように囲み方を変えてみると、碁石全部の個数は、 $3(n - 2) + 3$ という式で求めることができます。碁石全部の個数を求める式が $3(n - 2) + 3$ になる理由について、下の説明を完成しなさい。

図3



説明

したがって、碁石全部の個数を求める式は、 $3(n - 2) + 3$ になる。

【本市正答率】 24.4% [全国：24.1%]

(※ 図2の説明に沿っていない：30.8%)

4 児童・生徒質問紙との関連

(本市児童・生徒の「あてはまる」割合)

(64) 授業の内容はよく分かるか。

(77) 言葉や式を使って理由や求め方を説明する問題の解答を書こうと努力したか。

	番号	本市	全国	全国との差
算数	(64)	53.3	45.2	+8.1
	(77)	76.6	74.4	+2.2
数学	(64)	33.4	31.7	+1.7
	(77)	46.4	44.9	+1.5

【児童・生徒質問紙の結果(%)】

※ (64) の授業内容の理解については、小・中学校ともに全国を上回る。

(77) の言葉や式を使って理由や求め方を記述する問題への意欲についても全国を上回っているが (64) と比べるとそれほど差は無い。

5 授業改善のポイント

(1) 算数・数学共通

- 既述のB問題や鹿児島チャレンジ・鹿児島ベーシック等の思考力・表現力の育成を図る問題を授業や家庭学習で取り上げ、確実な見届けまで行う。
- 自分で考えたことを、根拠を明確にして筋道立てて書いたり説明したりする活動を充実させる。

(2) 算数

- 課題解決の場面で、具体的な事象と図・表、式と関連付けながら考えさせるなどの、算数的活動を積極的に取り入れる。
- 複数の条件に当てはまるものを判断したり、条件をそろえて比較したりする授業を様々な学年・内容の中で行う。

(3) 数学

- 生徒の多様な考えを引き出すような課題を設定し、生徒主体の問題解決的な授業を単元に位置付ける。
- 証明の学習で、方針(結論を示すためには何が分かればよい?・仮定から言えることは?など)を立てる活動を行う。



## 25年度 全国学力・学習状況調査結果分析

### 【児童生徒に対する質問紙調査結果〈抜粋〉】

#### 1 将来の夢や目標を持っていますか

	平成25年度			平成24年度			平成21年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①当てはまる	77.3	77.8	72.2	74.9	75.4	69.8	75.4	74.8	70.0
	②どちらかといえば当てはまる	12.8	12.6	15.6	13.3	13.8	16.9	13.5	13.5	16.3
	③どちらかといえば当てはまらない	6.0	5.3	7.0	7.0	6.3	7.8	6.5	6.4	7.9
	④当てはまらない	3.9	4.2	5.1	4.7	4.4	5.4	4.6	5.2	5.8
中学校	①当てはまる	51.8	51.4	47.4	49.1	48.0	45.5	50.3	47.9	43.7
	②どちらかといえば当てはまる	23.9	23.7	26.1	25.0	26.3	27.7	24.4	24.8	27.3
	③どちらかといえば当てはまらない	16.0	16.3	17.0	16.9	16.6	17.6	16.3	17.5	18.3
	④当てはまらない	8.2	8.6	9.4	9.0	9.0	9.1	9.1	9.7	10.5

夢や目標を持っていると答えた児童生徒は、全国よりやや多い。

#### 2 自分には、よいところがあると思いますか。

	平成25年度			
	本市	本県	全国	
小学校	①当てはまる	38.4	37.0	34.5
	②どちらかといえば当てはまる	40.7	40.4	41.2
	③どちらかといえば当てはまらない	14.9	15.5	16.9
	④当てはまらない	6.0	7.0	7.3
中学校	①当てはまる	26.4	25.0	23.4
	②どちらかといえば当てはまる	41.8	42.5	43.0
	③どちらかといえば当てはまらない	23.2	23.4	23.8
	④当てはまらない	8.5	8.9	9.6

自分のよいところに気付いていると思う児童生徒は、全国、県に比べ、やや多い。

#### 3 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

	平成25年度			平成24年度			平成21年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①3時間以上	14.0	9.7	11.9	11.7	7.8	11.1	12.0	8.3	11.6
	②2時間以上3時間より少ない	19.6	19.0	15.7	18.4	16.6	14.5	18.8	16.4	14.1
	③1時間以上2時間より少ない	40.1	43.4	35.9	40.3	41.7	33.9	39.8	42.7	31.5
	④30分以上1時間より少ない	18.5	19.5	24.3	19.9	23.4	26.1	20.7	22.6	26.4
	⑤30分より少ない	4.7	5.4	9.0	6.5	6.9	10.5	6.2	6.8	12.3
	⑥全くしない	2.9	3.0	3.1	3.0	3.4	3.8	2.5	3.1	4.0
中学校	①3時間以上	18.1	12.5	10.6	14.7	11.1	9.9	21.5	14.0	10.2
	②2時間以上3時間より少ない	35.7	31.4	26.0	34.1	28.5	25.4	34.8	29.4	25.5
	③1時間以上2時間より少ない	26.7	33.4	32.2	27.5	33.4	31.1	24.1	30.6	29.6
	④30分以上1時間より少ない	12.1	14.8	16.6	13.1	16.2	16.9	11.9	16.0	16.6
	⑤30分より少ない	4.6	5.2	8.8	6.7	7.0	9.7	4.8	6.4	10.3
	⑥全くしない	2.6	2.7	5.8	3.9	3.7	6.9	2.8	3.5	7.7

全国と比較すると、本市の児童生徒は、学校外での学習時間は非常に多い。小学校で、全くしない児童は、経年で少なくなっている。

#### 4 普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか。(テレビゲームは除く)

	平成25年度			平成24年度			平成21年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①全くしない	2.2	2.1	1.7	1.6	1.6	1.5	1.8	1.5	1.3
	②1時間未満	13.0	12.8	12.5	11.5	11.5	11.0	10.1	9.4	9.5
	③1時間以上、2時間未満	23.6	23.4	23.6	23.3	22.5	21.2	19.6	19.6	19.6
	④2時間以上、3時間未満	23.9	24.4	23.8	22.0	23.7	23.4	24.1	24.1	23.8
	⑤3時間以上、4時間未満	18.8	19.2	18.5	20.6	19.9	19.4	21.1	22.7	21.7
	⑥4時間以上	18.4	18.0	19.8	20.7	20.6	23.3	23.3	22.7	24.0
中学校	①全くしない	9.8	10.1	1.9	1.4	1.7	1.6	1.6	1.4	1.4
	②1時間未満	12.9	14.5	15.5	14.9	15.1	13.1	13.9	12.1	10.7
	③1時間以上、2時間未満	25.2	26.2	27.9	29.5	28.8	26.1	29.5	25.8	22.9
	④2時間以上、3時間未満	31.2	29.7	25.6	26.1	26.3	26.6	26.7	28.0	26.9
	⑤3時間以上、4時間未満	18.7	17.6	15.3	16.6	17.0	16.9	16.9	18.8	19.7
	⑥4時間以上	2.1	1.9	13.7	11.4	11.1	15.6	11.4	13.8	18.3

中学校でテレビ、DVD視聴4時間以上の生徒が、大きく減っている。また、全くしない児童生徒も全国に比べても多い。小学校は、全国と比べ、ほぼ同じ程度である。

5 読書は好きですか。

		平成25年度			平成24年度			平成21年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①当てはまる	51.8	51.6	47.9	53.8	52.8	47.7	51.2	50.2	46.4
	②どちらかといえば当てはまる	24.5	24.6	24.3	24.2	24.9	24.9	24.0	25.0	25.4
	③どちらかといえば当てはまらない	13.8	14.1	16.2	14.0	14.1	16.4	14.8	15.2	17.1
	④当てはまらない	9.7	9.5	11.5	7.8	8.1	10.9	9.9	9.5	10.9
中学校	①当てはまる	47.3	47.7	46.4	49.0	47.3	45.0	46.3	44.3	42.1
	②どちらかといえば当てはまる	24.1	24.3	23.8	25.6	26.2	24.7	26.2	26.6	25.3
	③どちらかといえば当てはまらない	17.1	17.0	16.5	13.9	15.8	17.1	17.0	17.8	18.6
	④当てはまらない	11.2	10.8	12.9	11.2	10.5	12.9	10.3	11.1	13.7

本市、本県の児童生徒は、全国と比較すると、読書が好きで生徒の割合がやや高く、①②を合わせると、7割を超える。逆に④の「当てはまらない」と答えた児童生徒が毎年同じくらいいるが、小学校は、やや増加している。

6 本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館にどれくらい行きますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)

		平成25年度		
		本市	本県	全国
小学校	①週4回以上	11.3	11.6	3.7
	②週1～3回程度	33.7	34.2	16.8
	③月1～3回程度	20.0	19.9	24.4
	④年数回程度	15.4	15.1	25.3
	⑤年数回、または、ほとんど行かない	19.2	18.9	29.4
中学校	①週4回以上	4.6	4.2	2.4
	②週1～3回程度	13.3	14.5	6.8
	③月1～3回程度	15.7	17.8	11.3
	④年数回程度	20.5	21.3	21.2
	⑤年数回、または、ほとんど行かない	45.7	42.1	58.0

本市、県の小学校は、全国と比べ、図書室等に頻繁に行く児童が多い。中学校は、県に比べ、ほとんど行かない生徒がやや多い。

7 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか

		平成25年度		
		本市	本県	全国
小学校	①当てはまる	38.0	41.4	37.6
	②どちらかといえば当てはまる	41.5	39.7	41.7
	③どちらかといえば当てはまらない	17.0	15.4	17.0
	④当てはまらない	3.3	3.4	3.6
中学校	①当てはまる	21.6	21.7	21.7
	②どちらかといえば当てはまる	43.1	44.1	43.0
	③どちらかといえば当てはまらない	28.2	27.4	27.4
	④当てはまらない	6.9	6.7	7.7

本市、県、全国とも、話し合い活動は同程度行われている。

8 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか

		平成25年度		
		本市	本県	全国
小学校	①当てはまる	27.0	29.2	25.9
	②どちらかといえば当てはまる	34.0	34.0	33.4
	③どちらかといえば当てはまらない	24.4	22.7	25.0
	④当てはまらない	14.1	13.7	15.2
中学校	①当てはまる	33.7	36.4	34.5
	②どちらかといえば当てはまる	34.1	33.7	33.4
	③どちらかといえば当てはまらない	21.5	19.9	20.9
	④当てはまらない	10.0	9.4	10.6

全国、県とほぼ同程度の割合で、難しいと感じている児童生徒が多い。

【学校質問紙調査結果〈抜粋〉】

1 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていますか

	平成25年度			平成24年度			平成21年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①そのとおりだと思う	37.2	38.2	36.8	40.0	36.9	35.2	24.4	34.7	34.4
	②どちらかといえば、そう思う	55.1	53.9	53.6	56.0	55.4	55.5	66.7	58.1	55.8
	③どちらかといえば、そう思わない	7.7	7.7	8.9	4.0	7.1	8.5	9.0	7.0	9.3
	④そう思わない	0.0	0.2	0.7	0.0	0.6	0.6	0.0	0.2	0.5
中学校	①そのとおりだと思う	28.2	45.2	46.5	40.9	48.4	44.9	59.0	49.0	42.2
	②どちらかといえば、そう思う	69.2	51.7	46.4	45.5	40.3	46.7	41.0	43.4	48.4
	③どちらかといえば、そう思わない	2.6	3.0	6.5	13.6	11.3	7.4	0.0	7.2	8.6
	④そう思わない	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.8	0.0	0.4	0.7

授業中の児童生徒の様子については、小学校では、全国、県と比較すると、私語が少なく落ち着いている学校が多い。しかし、中学校においては、「③④そう思わない」は少ないものの、「①そのとおりだと思う」の割合は、全国、県と比較するとかなり低い。

2 該当の児童生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を生徒に示す活動を計画的に取り入れられましたか

	平成25年度			
	本市	本県	全国	
小学校	①そのとおりだと思う	87.2	84.0	60.4
	②どちらかといえば、そう思う	11.5	14.9	36.1
	③どちらかといえば、そう思わない	0.0	0.8	3.4
	④そう思わない	0.0	0.2	0.0
中学校	①そのとおりだと思う	56.4	65.2	43.7
	②どちらかといえば、そう思う	43.6	33.9	48.9
	③どちらかといえば、そう思わない	0.0	0.9	7.1
	④そう思わない	0.0	0.0	0.2

本市、県は、全国と比較すると、授業冒頭での目標提示を計画的に取り入れている。

3 該当の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れられましたか

	平成25年度			
	本市	本県	全国	
小学校	①そのとおりだと思う	70.5	66.2	41.1
	②どちらかといえば、そう思う	29.5	31.1	50.9
	③どちらかといえば、そう思わない	0.0	2.5	7.8
	④そう思わない	0.0	0.2	0.1
中学校	①そのとおりだと思う	35.9	41.7	26.4
	②どちらかといえば、そう思う	59.0	53.9	61.7
	③どちらかといえば、そう思わない	2.6	3.9	11.6
	④そう思わない	0.0	0.0	0.2

本市小学校は、全国、県と比較すると、振り返り活動を計画的に取り入れている。

4 前年度までに、児童生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりするテーマを与えましたか

	平成25年度			平成24年度			平成21年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①よく行った	39.7	34.7	39.0	40.0	35.2	40.0	37.2	36.1	38.5
	②どちらかといえば、行った	56.4	57.5	52.3	48.0	54.0	51.4	50.0	54.6	53.1
	③あまり行っていない	3.8	7.7	8.4	12.0	10.8	8.4	12.8	9.2	8.4
	④全く行っていない	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.1
中学校	①よく行った	23.1	22.2	25.8	13.6	17.7	25.7	28.2	25.1	26.8
	②どちらかといえば、行った	64.1	60.4	55.6	59.1	63.7	55.8	59.0	50.6	54.1
	③あまり行っていない	12.8	17.4	18.3	27.3	17.7	17.9	12.8	23.9	18.4
	④全く行っていない	0.0	0.0	0.2	0.0	0.8	0.5	0.0	0.0	0.5

中学校は、24年と比較して、学級全員で取り組んだり挑戦したりするテーマをよく与えた割合が伸びてきた。

5 前年度までに、生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか

	平成25年度			平成24年度			平成21年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①よく行った	29.5	27.0	27.8	32.0	26.6	27.9	26.9	25.5	27.2
	②どちらかといえば、行った	62.8	62.5	63.1	60.0	65.1	63.7	61.5	64.3	64.0
	③あまり行っていない	7.7	10.2	9.0	8.0	8.4	8.2	11.5	10.2	8.7
	④全く行っていない	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
中学校	①よく行った	17.9	13.5	20.5	9.1	9.7	21.3	23.1	16.7	20.1
	②どちらかといえば、行った	66.7	70.4	65.4	68.2	71.7	65.4	61.5	61.4	65.4
	③あまり行っていない	15.4	15.7	13.9	22.7	18.6	13.1	12.8	21.1	14.2
	④全く行っていない	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.1	2.6	0.4	0.1

中学校は、24年と比較して、考えを書かせる指導が増えてきているが、全国と比べると、まだ低い。



6 該当の児童生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか

		平成25年度		
		本市	本県	全国
小学校	①そのとおりだと思う	43.6	39.4	48.4
	②どちらかといえば、そう思う	53.8	52.3	46.9
	③どちらかといえば、そう思わない	2.6	8.1	4.5
	④そう思わない	0.0	0.2	0.1
中学校	①そのとおりだと思う	17.9	16.5	30.2
	②どちらかといえば、そう思う	59.0	65.7	57.4
	③どちらかといえば、そう思わない	23.1	17.8	12.2
	④そう思わない	0.0	0.0	0.2

本市小・中学校は、全国と比較して、話し合いを意識した授業の割合が低い。

7 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか

		平成25年度		
		本市	本県	全国
小学校	①そのとおりだと思う	24.4	22.6	31.9
	②どちらかといえば、そう思う	67.9	71.4	62.9
	③どちらかといえば、そう思わない	7.7	6.0	5.0
	④そう思わない	0.0	0.0	0.0
中学校	①そのとおりだと思う	12.8	13.0	21.8
	②どちらかといえば、そう思う	66.7	74.8	67.6
	③どちらかといえば、そう思わない	20.5	12.2	10.5
	④そう思わない	0.0	0.0	0.0

本市小・中学校は、全国と比較して、参加した研修の成果が積極的に反映されているという割合が低い。

8 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか

		平成25年度		
		本市	本県	全国
小学校	①そのとおりだと思う	57.7	57.1	57.9
	②どちらかといえば、そう思う	42.3	42.3	40.0
	③どちらかといえば、そう思わない	0.0	0.4	1.9
	④そう思わない	0.0	0.0	0.0
中学校	①そのとおりだと思う	41.0	44.3	49.8
	②どちらかといえば、そう思う	53.8	54.3	47.3
	③どちらかといえば、そう思わない	5.1	1.3	2.7
	④そう思わない	0.0	0.0	0.0

本市中学校は、全国と比較して、学校の学力傾向や課題の共有できている割合が低い。

#### 【考察】

- ・本市児童生徒は、全国に比べ、将来の夢や希望をもったり、自分のよさに気付いたりしている割合が多い。今後、学校の様々な活動の中で、夢や希望をもたせたり、自尊感情を高める取組を進める必要がある。
- ・本市の児童生徒は、全国に比べ、授業以外での勉強時間はとても多いが、平均正答率は、さほど高くない。今後、家庭学習との連携を図った授業づくりや思考力、判断力、表現力を高める内容を取り入れた家庭学習の工夫が必要である。
- ・本市、読書好きの児童生徒が多い。また、小学校では、積極的な図書室の活用が図られている。
- ・授業の中で、話し合い活動や自分の考えを説明したり、文章に表したりする授業が徐々に定着しつつある。今後さらに、身に付けさせたい学力として、全ての学級で実施されるよう授業改善を進める必要がある。
- ・授業中の児童生徒の様子については、小学校は、私語が少なく落ち着いている学校が多い。中学校においては、「そう思わない」は少ないものの、「そのとおりだと思う」の割合は、全国、県と比べるとかなり低い。落ち着いた授業態度が確立できるよう、原因の究明や全校体制での取組が必要である。
- ・本市は、教師による授業の目標やまとめはしっかり示されていて、全国より高い割合である。しかし、全国との平均正答率との相関がみられない。今後、展開部分において話し合い活動など、様々な学習活動を充実させていく必要がある。
- ・一人一人の教師が、様々な研修会等に参加しているが、その成果をもっと学校の研修に反映できるようにする必要がある。また、学校の学力の状況や課題について、関係教科担当だけのものとせず、それぞれの教科や学年の視点でも教師が話し合い、共有できるようにしていく必要がある。